

自施設《職場》実習オリエンテーション

課題設定・実践方法について

① 自施設実習の目的

『実習』は認知症介護実践リーダー研修の総合学習として、研修で学んだ内容を生かして、自施設の実習協力スタッフ（以下、協力スタッフ）の認知症ケアの能力の評価方法を理解することを目的とする。

② 到達目標

- ① 協力スタッフの認知症ケアの能力に関する評価方法を立案することができる。
- ② 講義、演習で学んだ内容を活用することができる。
- ③ 認知症ケアの指導に関する実習計画を立案することができる。

③ 実習の視点

- ① 講義で学んだ指導に関する知識・技術を指導の実践に活用するための姿勢を学ぶ。
- ② 感受性を磨き、相手の立場で考える習慣をつける。
- ③ なぜか？どうしたらよいか？これでよいか？と考える習慣をつける。
- ④ 認知症介護の指導を実践している者としての自己を振り返る場とする。

④ 職場実習の留意点

- ① リーダー実習生個人及び協力スタッフの向上のみで終わらない工夫が求められます。
- ② リーダー実習生の所属する事業所全体の協力が不可欠です。
- ③ 実習がリーダー実習生個人の成果で終わらないように、職場実習においては、リーダー実習生所属の事業所の長は実習評価等の役割をもって実習への参加、協力を行うことが望ましい。
- ④ 実習に先立ち、職場内の他の職員も趣旨を理解し、リーダー実習生の実習目的と目標、実習内容、実習スケジュールが周知されていることが求められます。
- ⑤ 職場実習の目的ならびに目標は、実践研修全体の目的に沿ったテーマ設定であることが望ましいでしょう。
- ⑥ 職場実習は、研修のために展開されるものではなく、指導力の向上のために、現場で実践できるもの、もしくは今後実践の可能性のあるものが望ましいでしょう。
- ⑦ 自分自身の指導や教育を振り返る、見つめ直す機会です。客観的視点をもって臨みましょう。

⑤自施設実習の流れ

科目名	場所・時間・期間
1. 自施設における実習の課題設定	240分
2. 自施設内での実習オリエンテーション	自施設・事業所
3. 職場実習前半（各ステップの日数は目安）	
ステップ1（2日間）	自施設・事業所
ステップ2（2日間）	前半8日間
ステップ3（4日間）	
4. 実習の中間報告会	390分
5. 職場実習後半	
ステップ3（6日間）	自施設・事業所
ステップ4（3日間）	9日間
*ステップ3は合計10日以上	
*ステップ3期間中に「指導者ラウンド報告」	
6. 自施設実習評価（まとめ）	390分

⑥実習の展開方法

1. 自施設における実習の課題設定

事前の準備について

リーダー実習生は所属長や協カスタッフに実習協力に関する依頼を事前に行っておき、出来る限り実習日と協カスタッフの出勤日を合わせる。

自施設における実習の課題設定

課題設定には「職場内教育の方法の理解と実践」で実施した流れに沿って行う。
(手順書参照)

個人情報には十分に注意をし、「倫理的配慮」として、個人が特定される情報を記号化する。

2. 自施設内での実習オリエンテーション

自施設・事業所（所属の長・協カスタッフ・チーム）へ実践計画に基づき、実習の目的・展開内容及び協力してもらう内容に関して説明し同意を得る。必要であれば再検討（修正）を行う。

実習スケジュールについてもリーダー実習生と協カスタッフのみだけでなく、チーム内での共有も必ず行う。

3. 自施設実習前半 8日間（ステップ1・ステップ2・ステップ3）

「ステップ1」 課題を通して協カスタッフの観察を行う・目安2日

教育指導をするもの（リーダー実習生）、受けるもの（協カスタッフ）双方が

現在の課題を明確にするために、課題分析シートで示した状態があきらかであるかを確認していく。課題と指摘していたことが事実なのかを明らかにすることで、今後の実践展開も明確にすることができる。

「ステップ2」 課題解決のための分析や協力スタッフとの合意形成

・・目安2日

リーダー実習生が背後にある考え方や知識を示し、協力スタッフが考える基盤を作る。勉強による知識修得後に実際の様子を見せながら、理由やコツや急所を明確にし、進め方に関する合意形成を協力スタッフと行う。

「ステップ3」 一緒にやってみる

・・前半の目安4日～5日、後半の目安6日以上

実践の時期。リーダー実習生が指導しながら一緒に行い、手順やコツを説明しながら協力スタッフに実践してもらう。出来るまで繰り返し行うことが必要で、出来ていることは評価して、出来ていないことを指摘するようにする。実習前半では4、5日実践することで、中間報告会でのあらたな気づきにつなげていくことを意識する。

4. 実習の中間報告会

実習の進捗状況や前半の成果などを確認するとともに、職場研修企画書の実効性を高めるために、前半の実施記録等を基に認知症介護指導者とともに再アセスメントし実践計画の修正を行う。

5. 自施設実習後半 9日間（ステップ3・ステップ4）

「ステップ3」 新たな気づきと計画修正後の実践展開

・・後半の目安6日以上

前半からの続きになるが、中間報告会での新たな気づきをもとに、軌道修正した内容も生まれると思われる。

コーチング等の手法を展開する。協力スタッフに実際に取り組みをしてもらい、行動の背景にある考えや理由について振り返る機会を作る。

協力スタッフが自分で出来ないことに気づき、どうしたら上手くできるかなどを考えることができるように支援する。

「ステップ4」 独り立ちと成果の確認・・目安3日

協力スタッフ一人での実践になるが、わからないときに聞く人をあらかじめ決めておいたり、リーダー実習生からの問いかけによって理解しているかを確認

するなどの工夫が必要（やらせばなしにはしない）。
自分で工夫した結果、成果をあげているときは指導するのではなく、取り組みを評価・肯定し、継続を励ますようにする。

6. ラウンド報告

実習後半期間中「**ステップ3期間中**」に担当指導者が施設をラウンドします。中間報告で振り返りと見直した計画の実践を展開する過程で行われるため改めて確認することができます。

7. 自施設実習評価（まとめ）

実践に関する計画の実施結果を整理したうえで、客観的に評価、分析して今後の課題を明確にします。

- ① 実践内容の整理・評価を行います。成果に対する自己評価を行います。
- ② 実施した実践計画を整理し他者へ伝える。
- ③ リーダー実習生や協カスタッフにとって有益な実践であったか客観的に評価します。
- ④ 事業所やスタッフにとって有益な実践であったかを客観的に評価します。
- ⑤ 結果を分析して今後の課題を明確にします。

発表の視点

テーマ：今回の実践（取り組み）内容を要約して記入します。
目的：今回の実践（取り組み）の経緯と目標について記入します。
方法：実習で実践した作業方法について記入します。
結果：今回の実習の成果からわかった事、見えたこと、読み取れたこと等について記入します。
考察：結果で分かった事や読み取れたことの要因などについて記入します。
今後の課題：今回の取り組みが、認知症の人に対してどのような影響を与えたかまた、今後につなげていきたいことについて記入します。